

# 代表 新駅周辺まちづくり構想

本田 高一 (菊川ゆめ未来)



JR菊川駅南北自由通路の完成を見据え、令和8年度施政方針に位置付けられた駅北から国道1号方面への道路整備について、その役割や土地利用と一体となったまちづくりの考えを伺った。あわせて、南北自由通路完成を契機とした駅周辺のにぎわい創出について、イベント中心の現状評価とともに、日常的な滞在空間の必要性や若い世代の声の反映、常設的施設整備の可能性について市の見解を求めた。

第2次菊川市国土利用計画において自然・里山ゆったりゾーン、菊川市都市計画マスタープランでは、農業環境ゾーンや森林環境ゾーンに指定されており、住宅や商業、工業に活用する計画はない。

掛川市日坂地区などを含めた広域的な人の動線確保や、JR菊川駅周辺のにぎわいへの波及効果の認識は。

道路整備により周辺地域とのアクセス向上が図られ、広域的な人の流れの円滑化や駅周辺への波及効果が生じると認識している。

駅北から国道1号方面へ、防災・避難の観点から道路整備をどう位置付けるか。

現時点で具体的な計画はないが、国道1号への道路は令和8年度施政方針に初めて位置づけ、災害時の避難経路や地域の安全性向上の観点からも必要性を認識している。

新幹線北側に広がる未利用・荒地の活用をどう捉えるか。  
新幹線北側の開発については、



駅北方面において、道路などの動線整備と、新幹線北側を含む土地利用を個別に進めるのではなく、道路と土地利用を一体的に進める構想の有無は。

東海道本線から新幹線までの約200ヘクタールを対象エリアとし、菊川駅北整備構想を策定している。新幹線北側地域の土地利用構想はない。本市としては拡大志向ではなく、住居や福祉、商業などの施設を拠点に誘導し、拠点間を結びコンパクト・プラス・ネットワークの考え方に基づくまちづくりを進める方針である。

きくる広場における催しや夜店市など、イベント中心のにぎわい創出の現状をどう評価しているか。

本市は高校生など多様な主体による様々なイベントを開催しており、多くの来訪者呼び、市の魅力発信に大きく寄与していると認識している。日常的なにぎわいについては十分ではなく、駅周辺をより活気ある場としていく必要があると考えている。

通勤・通学者などが日常的に滞

在できる駅周辺施設の必要性をどう考えるか。

買い物や飲食など日常的に人が過ごせる施設は駅周辺において必要性は高いが、行政だけで実現することは難しく、民間活力の導入を促していく必要があると考えている。

若い世代からの「駅周辺で過ごせる場所が欲しい」という声をどう受け止めるか。

南北自由通路内や駅の南北広場にベンチを設置するとともに、駅北広場にキッチンカーが出店できるスペースを確保する計画である。

日常的なにぎわいを生む施設整備について検討する考えはあるか。  
柔軟に対応していく。



動画はこちら